

乙 第 号

永野 龍司 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	吉栖 正典
論文審査担当者	委員	教授	粕田 承吾
	委員(指導教員)	教授	岸本 年史

主論文

Retrospective analysis of heroin detoxification with buprenorphine
in a psychiatric hospital in Japan

当院におけるヘロイン依存症者への buprenorphine による解毒治療についての検討

Tatsushi Nagano, Sohei Kimoto, Katsuro Aso, Takashi Komori, Yasunari Yamaguchi,
Kazuya Okamura, Noriya Yamamoto, Toshifumi Kishimoto
Neuropsychopharmacol Rep. 2020 Dec;40(4):376-382.

論文審査の要旨

学位申請者は、兵庫県神戸市の復光会垂水病院において、ヘロイン依存症患者の解毒期の離脱症状を緩和するために用いたブプレノルフィン注射剤による置換漸減療法の効果と安全性を同療法導入の前後で比較検討した。その結果、入院期間については、ブプレノルフィンによる置換漸減療法の本格導入後の群の方が本格導入前の群に比較して有意に入院期間は短く、かつ治療継続率（完遂率）も本格導入前と比較して有意な改善を認めたが、再入院率は上昇していた。また、臨床オピオイド離脱症状尺度（COWS）の最高得点はブプレノルフィン総投与量と相関していたが、入院期間との相関は認めなかった。結論として、ブプレノルフィンによる置換漸減療法により、離脱症状を顕著に軽減でき、従来の治療法と比較して解毒治療完遂率は有意に上昇し、入院期間も有意に短縮できた一方、再入院率が増えたことも明らかになった。

公聴会で審査委員らは、COWSの客観性、高用量ブプレノルフィンによる副作用、適応外使用の可否等について質問したが、いずれも適切な回答が得られた。本研究は、ヘロイン依存症患者に対するブプレノルフィン置換漸減療法の有効性と安全性に加えて、ヘロイン依存症者に対する維持療法の必要性が示された。

参 考 論 文

1. 当院のリワークプログラム参加者における復職に関連する因子の検討
原田 泉美、松田 康裕、盛本 翼、上田 淳哉、山内 孝之、永野 龍
司、井上慶一、大塚紀朗、岸本年史.
精神科 37(3) : 320-330,2020
2. 塩酸ペロスピロン（ルーラン）が排泄行為に改善をもたらした1症例
永野龍司、根來秀樹、岸本年史.
Progress in Medicine 21:2392-2394,2001

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに精神医学行動神経科学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和3年3月9日

学位審査委員長

情報伝達薬理学

教授 吉栖 正典

学位審査委員

法医学

教授 粕田 承吾

学位審査委員(指導教員)

精神医学行動神経科学

教授 岸本 年史